

日本都市学会ニュース NO. 38

2014. 7. 10

発行 日本都市学会 〒460-0008 名古屋市中区栄4-12-26 栄CDビル5A OASIS都市研究所内

TEL 052-252-7741/FAX 052-251-5058

郵便振替 00130-0-512255/三菱東京UFJ銀行栄町支店普通口座 0126767

<e-mail>info@toshigaku.org <ホームページ>http://www.toshigaku.org/

日本都市学会第61回大会(2014年度)を開催します

日本都市学会第61回大会は、2014年10月24日(金)～26日(日)の間、京都市の同志社大学今出川校地を会場として、「都市・文化・まちづくりー新しい都市学の成立をめざしてー」をテーマに、下記のスケジュールで開催されます。

研究発表ご希望の方は、**8月11日(月)16時必着**で、近畿都市学会事務局まで、お申し込み下さい。詳細は、別途お送りする「大会開催のお知らせ」あるいは日本都市学会ホームページをご覧ください。

プログラムは9月上旬に決定しますので、その後お手元にお届けする予定です。

大会スケジュール案

10月24日(金)

午後 エクスカージョン (各コース20名)

A 京都の都心景観と京町家を観る

B 伝統と文化の町東山を歩く

10月25日(土)

午前 研究発表 I

午後 講演・シンポジウム

日本都市学会賞授賞式

日本都市学会総会

夕方 懇親会 (french restaurant will)

(同志社大学寒梅館7階)

10月26日(日)

午前 研究発表 II

1-2 学会賞担当事務局

推薦依頼等の経過報告がありました。

1-3 論文審査担当事務局

C判定が12編あったことについて若干の討論がなされました。査読者に最終判定が報告されないことについて意見がありました。これについて、今後「査読者の意見を尊重するが、最終的に審査委員が責任と権限をもち、査読者には判定結果を通知しない」という趣旨を、依頼の際、査読者に説明しておく方向で対応することになりました。

2 第61回大会について

近畿都市学会から大会開催案および大会テーマ解題案が提案されました。大会テーマの副題に「新しい都市学の成立をめざして」を追加することになりました。

3 2013年度事業報告および決算報告案

事業報告に大会参加者数を記載することになりました。

4 2014年度事業計画および予算案

予算について、近年の繰越金の増加傾向を考慮すると、大会補助の増額、常任理事の旅費本人負担の廃止などを行ってはどうかという事務局提案に対して討論が行われた。結果、急激な変更は避ける方向で検討して6月の理事会に提案することになりました。

5 その他

①北海道都市地域学会会員の状況について、資料で説明がありました。

②会員(元会員)の叙勲申請の資料作成がかなり負担になっていることが事務局から報告がありました。

③関東都市学会から第62回大会の日程について提案があり、お任せすることになりました。

2013年度第1回常任理事会報告

2013年度第1回常任理事会は3月16日(日)13時30分から名古屋市内の名古屋都市センターで開催され、戸所会長はじめ土屋純(代理:松本行真)、熊田俊郎、磯部友彦、大塚俊幸、小長谷一之、堤昌文の各常任理事、杉野尚夫事務局長が出席しました。

議事の概要は以下のとおりです。

1 分散事務局報告

1-1 年報担当事務局

年報VOL.47の編集経過の報告があり、夏前には発送するとの報告がありました。なお、既刊の年報代金の消費税をどうするかの議論があり、事務局で研究することになりました。

2014年度第1回理事会報告

第1回理事会は、6月8日(日)13時30分～15時40分、名古屋都市センター第2会議室で開催され、戸所隆会長をはじめ、森傑、千葉昭彦、井上繁、土居洋平、西野淑美、高田弘子、林上、山崎健、山田浩之、豊田哲也、堂前亮平、外井哲志の各理事、土屋純、熊田俊郎、磯部友彦、大塚俊幸、堤昌文の常任理事、さらに石田信博(大会事務局)、杉野尚夫事務局長が出席しました。

議事の概要は以下のとおりです。

1 常任理事および理事の変更、交替について

北海道選出理事に越澤明氏、中四国選出の理事に豊田哲也氏、北海道選出の常任理事に森傑氏が就任することが報告され、了承されました。

2 2013年度事業報告および決算報告案

事業報告に「60周年記念事業」を記載することになりました。決算案は原案通りに了承されました。

3 2014年度事業計画および予算案

大会補助を35万円から40万円に増額することになりました。常任理事の旅費本人負担限度額15,000円を7,500円に引き下げることになりました。

4 論文審査事務局報告

論文受理数42編、うち最終採択論文数30編との報告がありました。なお、論文審査委員長から、論文審査用の書式と年報提出用の書式にズレがあったことから若干の問題が発生したことについて報告がありました。年報担当からもこの件で補足説明がありました。

不採択の論文が12編と多かったことが話題になりましたが、このなかで無審査論文として投稿されたのは1件のみとの報告がありました。

5 年報事務局報告

年報VOL.47について編集経過の報告があり、8月の前半までには発送可能、抜き刷りはその後になるとの報告がありました。

論文投稿者の一人から、査読後の論文について一部修正したいとの申し入れがあり、この件について議論がなされました。結論として、査読論文は査読完了後は修正しないというルールに従うことが確認されました。

関東都市学会から、投稿資格は個人会員とするとの規定について、団体会員に所属する会員にも投稿資格を認められないかとの問題提起がなされました。

さまざまな意見が出されましたが、大きな方向としては個人会員を前提とするとの意見が多数を占めました。この問題は「日本都市学会査読付き論文投稿要領」に関するものであり、この規程は論文審査委員会に権限があることから、理事会の議論を踏まえて論文審査委員会で検討することになりました。

6 学会賞事務局報告

日本都市学会賞（奥井記念賞）および論文賞の候補が報告され、選考委員会の委員について原案が示され、原案どおり了承されました。

なお、論文賞候補について、同一著者の2編の論文が候補になっている問題について、その取扱が議論になりました。討論の結果、両方とも審査対象として上位のものを表彰対象論文とすることになりました。

7 第61回大会について

第61回大会について、スケジュールの詳細、大会テーマ解題案が報告され、スケジュールに一部修正がありましたが、原案どおり了承されました。

なお、会員以外の者の研究発表を認めるか否かについて議論がありましたが、原則として認めるとの結論になりました。

なお、近畿都市学会は、6月末の近畿都市学会大会で山田会長から碓井会長に交替し、事務局も奈良大学から大阪府立大学へ移転することが報告されました。大会の研究発表申込の時期と事務局の移転が重なり、少し複雑なことになるかもしれないとのコメントがありました。当面、大会の窓口には山崎理事がなることになりました。

8 第62回大会について

第62回大会について、関東都市学会から報告があり、大会テーマは「新幹線駅を活かした地方都市のまちづくり」（予定）となりました。

9 第63回大会について

第63回大会について、中部都市学会から2016年10月28～30日、岡崎市で開催したいとの報告がありました。岡崎市の市制100周年に合わせるとのことです。

10 2015・2016年度会長推薦選挙について

日本都市学会2015・2016年度会長選挙実施要綱案が提出され、原案通り選挙を実施することが了承されました。

11 その他

本部直属会員のうち1名が会費滞納により退会処分とすることが了承されました。

第62回大会は上越市で開催します

第62回大会は関東都市学会が担当して新潟県上越市で開催することが決まりました。

日程 2015年10月30日（金）～11月1日（日）

会場 JR直江津駅北口 ホテルハイマートほか

大会テーマ「新幹線を活かした地方都市のまちづくり（仮）」

第63回大会は岡崎市で開催予定

第63回大会は中部都市学会が担当して愛知県岡崎市で開催する予定です。

日程 2016年10月28日（金）～30日（日）

会場、大会テーマは未定

学会賞等選考委員が決まりました

日本都市学会賞（奥井記念賞）選考委員は、越澤明、土屋純、熊田俊郎、磯部友彦、大塚俊幸、小長谷一之、由井義通、堤昌文の常任理事全員で、選考委員会は9月7日に開催されます。

日本都市学会論文賞の選考委員は、越澤明、増

田聡、井上繁、土居洋平、林上、高田弘子、久隆浩、山崎健、豊田哲也、外井哲志の11名が選ばれました。選考委員会は9月7日に開催されます。

学会賞候補が出そろいました

日本都市学会賞（奥井記念賞）候補

- ①千葉昭彦著『都市空間と商業集積の形成と変容』原書房、2012.5.22発行
 - ②松橋達矢著『モダン東京の歴史社会学—「丸の内」をめぐる想像力と社会空間の変容』ミネルヴァ書房、2012.10.20発行
- 日本都市学会論文賞候補
- ①スミヤ ゲレルサイハン『モンゴルの酪農における国の政策への評価—「ミルク」国家プログラムを事例として—』日本都市学会年報45号
 - ②金城敬太・松本行真『東日本大震災の調査をもとにした避難行動についての個人や社会からの影響の分析』日本都市学会年報45号
 - ③川副早央里・浦野正樹『原発災害の影響と復興への課題—いわき市にみる地域特性と被害状況の多様性への対応—』日本都市学会年報45号
 - ④疋田静・市南文一『岡山市中心商店街の経営環境—表町商店街の実態分析を中心として—』日本都市学会年報45号
 - ⑤鈴木地平『持続可能な地域活性化に資する文化的景観保護政策とその課題—熊本県天草市の取組みを事例に—』日本都市学会年報45号
 - ⑥大勝陽平・松本行真『震災復興プロセスにおける地域住民の果たす役割に関する研究—福島県いわき市四倉町道の駅「よつくら港」の取り組みを事例に—』日本都市学会年報45号
 - ⑦遠藤一幸・松本行真『震災復興に向けた道の駅の現状と課題』日本都市学会年報45号
 - ⑧スミヤ ゲレルサイハン『ウランバートル近郊の酪農における生乳生産の量的拡大に関する研究』関東都市学会年報第14号
 - ⑨野坂真『地域産業論から見る過疎地域の災害復興—能登半島地震後の輪島市市街地を中心として—』関東都市学会年報第14号

2014年度日本都市学会役員

会長 戸所隆（関東）
理事 越沢明（北海道）、増田聡（東北）、千葉昭彦（東北）、井上繁（関東）、土居洋平（関東）、西野淑美（関東）、高田弘子（中部）、林上（中部）、久隆浩（近畿）、山崎健（近畿）、碓井照子（近畿）、豊田哲也（中四国）、寺谷亮司（中四国）、堂前亮平（九州）、外井哲志（九州）
常任理事 森傑（北海道）、土屋純（東北）、熊田俊郎（関東）、磯部友彦（中部）、大塚俊幸（中部）、

小長谷一之（近畿）、由井義通（中四国）、堤昌文（九州）

監事 佐藤直由（東北）、高山正樹（近畿）

事務局長 杉野尚夫（中部）

地域都市学会事務局一覧

- 北海道** 062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1
都市地域学会 札幌大学女子短期大学部経営学科小山研究室内 TEL 011-852-9342（直通）
 <e-mail> koyama-s@sapporo-u.ac.jp
- 東北** 970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾309
都市学会 福島工業高等専門学校コミュニケーション情報学科松本行真先生気付
 TEL 0246-46-0850
 <e-mail> matsumoto.m@fukushima-nct.ac.jp
- 関東** 112-8606 東京都文京区白山5-28-20
都市学会 東洋大学社会学部社会学科西野淑美研究室内
 TEL 03-3945-7453/FAX 03-3945-7453
 <e-mail> y_nishino@toyo.jp
- 中部** 487-8501 春日井市松本町1200番地
都市学会 中部大学人文学部大塚研究室内
 TEL 0568-51-9107/FAX 0568-52-0622
 <e-mail> chubutoshi@isc.chubu.ac.jp
- 近畿** 599-8531 堺市中区学園町1-1
都市学会 大阪府立大学経済学部綿貫伸一郎研究室
 TEL/FAX 072-428-1761
 <e-mail> info@kintoshio.org
- 中四国** 739-8524 東広島市鏡山1-1-1
都市学会 広島大学大学院教育学研究科社会認識教育学研究室内
 TEL 082-820-2345/FAX 082-820-3724
 <e-mail> yyui@hiroshima-u.ac.jp
- 九州** 839-8502 福岡県久留米市御井町1635
都市学会 久留米大学経済学部・文化経済学科 浅見良露研究室内
 TEL 0942-43-4411/FAX 0942-43-4797
 <e-mail> asami_yoshitsuyu@kurume-u.ac.jp

各大学事務局から会員の叙勲申請のための資料作成の依頼が相次いでいる。おおむね80歳後の会員が対象になるようだが、すでに退会した方や、最近とんとお見かけしない方が多い。それでも資料を作成しているとなつかしい顔が思い出される。大学事務局と書類のやりとりをしている間にその方が亡くなり、死後叙勲に切り替えるので至急に資料を整えてほしいというケースもあった。受章の栄誉を受けられるまでお元気でいていただきたいものだ。（杉）

